

令和2年6月30日(火)
17:00～19:00

教育課程編成委員会

記録者 山田 満佐裕

日時 令和2年6月30日(火) 17:00～19:00

場所 新館8階ホール

出席者 内部(敬称略) 工藤、池田、阿見、櫻井、境田、齊藤

外部(敬称略) 岩田、飯村、石井、白坂、堀口、永井、石川

【全体会(17:00～17:30)】

1. 挨拶: 和田校長
 - 1) 新年度を迎えて
2. 今年度の授業運営: 工藤副校長
 - 1) 4月～6月までの授業について
 - 2) 学内新型コロナウイルス感染症対策
3. 教育課程編成委員会 年間スケジュール確認: 山田

【分科会(17:40～19:00)】

1. 令和2年度カリキュラム: 各役職者
 - 1) 概要説明
 - 2) カリキュラム改善に向けての意見交換

2. 分科会日程 相談および確定: 各役職者
理容分野

令和2年 9月29日(火) 16:00～

美容分野

令和2年10月13日(火) 16:00～

12月 1日(火) 16:00～(石井先生)

12月 2日(水) 16:00～(白坂先生)

3月 9日(火) 16:00～

エステ分野

令和2年 9月(8月に確定)

その他分野(BA科)

令和2年 9月 4日(金)

意見交換内容

理容科

1) 新しいカリキュラム開発

① ヘッドスパ

- ・入社後、一番早く入客することができる技術である。
- ・サロンでは10h位のカリキュラムで行っている。
- ・ドライヘッドスパも導入しているサロンもある。

② アイアニング

- ・相モデル実習まで考えると、多くの授業時間数が必要になる。
- ・カット+αで、アイロンをメニューに加えているサロンがあり、お客様にも非常に好評である。(銀座マツナガ)
- ・飯村先生、岩田先生のサロンでは、アイロン技術はスタイリストへ育成するカリキュラムの中では、一番最後に習得する技術、あるいは希望制にしているとのこと。

※①②の内容を理容科内で、話し合いカリキュラム内容の骨子を作成する。

美容科

1) 美容科のカリキュラムの現状を改めて説明。コロナウイルスにより変更した内容の共有。

2) 現在の「美容科の売り」について

⇒訪問美容師やフリーランス等も視野に入れさせるのであれば、夢を見させるだけではなくて業界のリアルを伝えてあげる必要がある。

3) サロンでの新人育成はどのようなことをしているか

⇒全員到達するゴールは決まっており、目指す方法は個別で変えている。

具体的には、それぞれに合わせた得意な課題(技術、接客等複合的に)を3つ与え、目標に到達した課題から次の課題へ派生させる。このやり方により個人の能力を考慮しながら同じゴールへ到達させることができる。

ビジネス美容科

1) 学生状況報告

1年生: 入学オリエンテーション ビジネスマインド

2年生: ビジネスマインド(キャリア教育) 就職活動報告

2) 今年度専門教育について

昨年度課題: 強化しなければならない授業→応用技術(フェイシャル・ボディ)

応用技術作成後、後期より技術練習開始

今年度課題: プレゼンテーション授業の強化 (提案力)

令和2年6月30日(火)

17:00 ~ 19:00

資格・検定の任意制度 新提案

昨年課題：健康管理士 検討中

日本化粧品検定について → 11月受験予定

3) 今年度キャリア教育について

昨年課題：人から求められる人材になる→評価を受け入れる、相手を受け入れる、
自分を知る

実践：承認・共感プログラム (1年生)

自己開示・自己実現プログラム (2年生)

サロン運営の見直し→他学科と合同サロン運営(ネイルサロン、エステサロン)
売上、シフト管理、顧客管理、広告、運営方法の共有化

様々な異業種の成り立ち、仕事への考え方・向き合い方・やりがい等を感じ、自分の考えをプレゼンする。

コロナ感染対策の為、後期より始動予定

3) 今年度人間教育について

目標・夢を持つ→夢を描けるエステティシャンになる、お客様の未来と一緒に歩む
(人に興味を持つ)

人のために生きること、人のために何かを一生懸命に頑張れる人間になる

4) 入学前教育プログラムについて

入学前に行う職業意識、学業を学ぶ意識のとらえ方を見直す

① 文章型考察力 ② ビジュアル型考察力 ③ 保護者への感謝の手紙

④ 基礎学力 (計算・漢字・自治問題等)

学生の基礎学力、ソーシャルスタイルを知り入学後のグループワーク・セルフワーク
の方法に活かすことを行った。

期間が短いため、前期検証を行う。

ビューティアーティスト科

1) カリキュラムについて…他校のヘアメイク科にはない特色をつくる

⇒キャリア教育強化

2) キャリア教育強化…働き方が変化しており、それに伴いキャリア教育の内容の見直しをする。組織に属したいのか、個(フリーランス)で働きたいのかを引き出し、働き方に合わせたキャリア教育を構築する

以上